

麦だより(第1号)

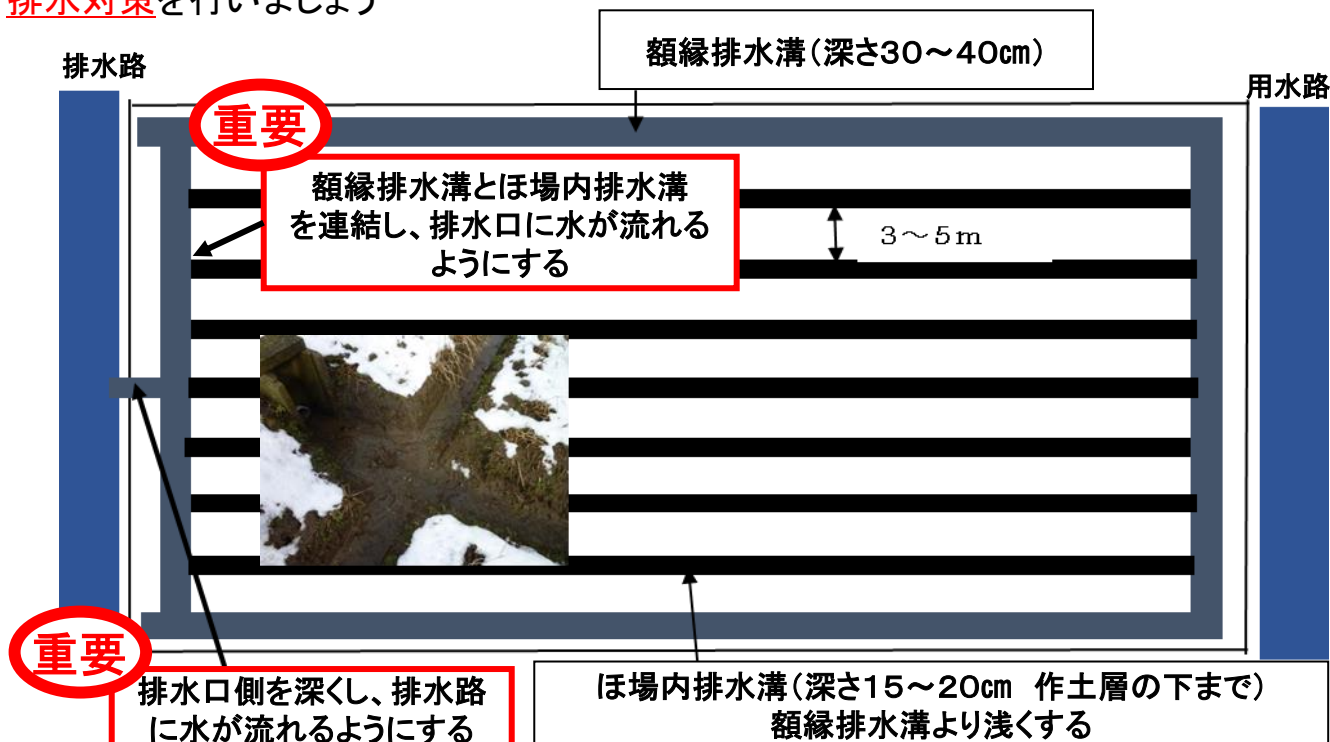
令和6年8月 日
J A 能 美

収量UPにはほ場準備が重要！湿害が最大の減収要因に

1. ほ場に応じた排水対策の実施

①排水対策(必須): 表面排水

麦の苗立や生育をよくするとともに、除草剤・肥料の効果を高めるためには、排水対策が最も重要な技術です。稲刈りが終わったほ場から、速やかに額縁排水溝を施工して排水対策を行いましょう



②表面排水の強化

<ほ場内排水溝の溝を多く施工>

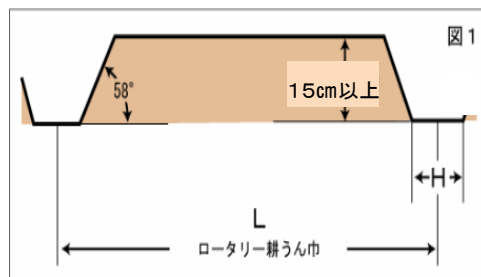
・ほ場内に細かく(3m間隔程度)排水溝を堀り、溝の深さをなるべく深く(20cm以上)するなど、少しでも表面排水を強化しましょう。

<畝立て>

・サイドリッジャー等を用いて耕起、播種と同時に簡易のほ場内排水溝を施工し、畝を立てることで播種する位置をなるべく高くしましょう。



(サイドリッジャーによる畝立て)

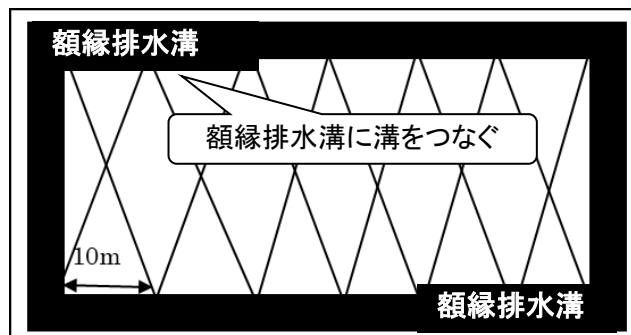


(播種後の圃場断面)

③硬盤・心土破碎の実施

＜サブソイラ(弾丸暗渠)による排水対策＞

- ・サブソイラ(弾丸暗渠)を用いることで、湿害の原因となる硬盤を破碎し、水の縦浸透が良くなります。
- ・サブソイラにより弾丸暗渠を施工したほ場の多くでは排水性が向上し、麦では、苗立の向上や 茎数(穂数)が確保されることにより、収量の向上も期待できます。
- ・本暗渠がない場合、十分に深く施工した額縁排水溝と弾丸暗渠を繋げることで、下方に浸透した水が弾丸暗渠から排水溝を経て排水口に流れます。



(弾丸暗渠の施工方法)



(弾丸暗渠の施工の様子)

2. サブソイラ等による排水対策施工の可否判断

下記のほ場では、湿害助長や機械破損の恐れがあるので、サブソイラ等による暗渠施工は行わず、表面排水を強化しましょう(②を参照)。

サブソイラ等による排水対策の施工を行わないほ場の条件

地下水位が硬盤層近くまで高く本暗渠がない

硬盤層の直下の心土層が礫質・砂質で透水性が高い

硬盤層の下が岩盤層



(弾丸暗渠の施工の様子)

排水対策の失敗事例(補修・改良が必要)

崩れによる溝の埋没



逆勾配になっている

排水口



手前側が低いため
水が流れていかない

排水路に水が流れていくようにほ場整備を行いましょう！